

## 編集室から

10月初旬に3度目となる東北の土を踏みました。岩手県陸前高田市に、能登の大鍋を持って参りましたが、お宿は交流のある遠野で農家民宿に分宿でお世話になりました。

伝統的な建築様式で大きな農家には、驚きました。この農家の農地には数トンもある巨石がごろごろしているそうで、各種の重機が並んでいたのにも、営農のご苦労が偲ばれました。

さて、翌朝は早々に出発し帰途に付く予定でしたが、ご当主はどうしても案内したい処があると云われます。予定を変更する訳には行かないので、夜明け早々とするに。

ご当主の車に揺られて付いたところは、櫛の林の中に佇む2階建ての建物。良く見ると、その奥にも住宅らしき平屋があります。

伺うと、ここに住む70歳過ぎの方が、大工さんに建ててもらった平屋のご自宅がどうしても気に入らず、数年を掛けて独力で建てているのが、この2階建なのだそうです。



棟木にも、ひさしにも曲がり木がふんだんに使われています。パシュッ。パシュッと音をさせてホチキスで合板を留めてゆく最近の工法しかできない職人(?)だともうこんな仕事は



できないのだとか。直木よりも、曲がり木の方が、より大きな加重に耐えられるのですが...

この国の伝統の技は、何処へ行ってしまったのかと感ずる一方、いやはや何とも凄い方が居られるものと、恐れ入った次第です。

早朝の朝もやの中、鳥のさえずりと木々を抜ける風に頬を撫でられて、心地よいひと時でした。(は)



このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。



2011/11

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email [usric@neting.or.jp](mailto:usric@neting.or.jp)

2011/11

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

## 霜 月



上高地にて  
by hama

負けるな東北!  
忘れるな日本!

東北へ旅に出かけて  
復興を応援しよう!

## 寄稿 『天満の天神さんの宮水』

天神橋筋商店連合会会長 土居 年樹

大阪の天満は、明治の頃まで百三十軒ほどの造り酒屋が存在していたと云われている。それは地下水が良かったからだ。

しかし、近年汚染が広がり、地下鉄・JR東西線の開通などで、地下水の水脈が寸断されてしまった。

往時を想像しつつ「水よ、もう一度」との思いを抱いていた。ところがなんと、念ずれば通じるような出来事が起こった。

関西大学楠見学長（地質学の権威）との出逢いである。縁あって天神橋筋と関西大学は友好協定を結んでいた。

「土居さん。天満で地下を掘ってみませんか。ええ水が出ますよ。」

これを聞いて居ても立つてもおられず、私は動き出した。

天神さんにお願いだ。「境内の何処かを掘らせてくれませんか。ええ水を掘り当ててみたいんです。」

「境内に五知の水といわれた井戸があった。そのあたりを掘ってみたら。」

宮司の嬉しい返答に、早速試験掘りを開始した。地下七十メートルにある地層を検出し、いよいよ学長の出番である。

「第三帯水層（七十メートル）の水には不純物が無いと推測される。」

いい返事が返ってきた。寺井宮司はすぐにでも本掘をしたいという。

早い時期に天満の良水が出るだろう。

「この水をどう活かすか」が、次の課題だ。

天満宮・関西大学・天神橋筋商店連合会が三位一体となって社会に役立つ活用法を考えたいものだ。



【プロフィール】

（どい）ときき）一九三七年大阪生れ。天神橋三丁目商店街振興組合理事長。「日本一長い商店街」として有名な大阪・天神橋筋商店街の振興・活性化に取り組む実践派。商店街を数々の斬新なアイデアで活性化する。日本の観光カリスマ百選認定。

## 濱のつぶやき 『大なべ』

十月初旬、陸前高田市へ伺った。コーディネータを仰せつかっている石川地域づくり協会の行事として、被災された方に能登の大鍋をお持ちするためである。四年前の能登半島地震の際、交流のある沖縄から多大な厚情を頂いた。今回は、その義捐金を沖縄の産物に変えて、能登を中継した沖縄と東北をつなぐ意味も籠めた。甲子園でも知られるようになった能登の航空学園のご協力を頂き、トラックとバスをお借りし、一晩掛けて岩手県遠野市を目指した。

ここでは、カリスマの菊池新一さんが待っていた。遠野市は、三陸海岸各地から概ね一時間の内陸にあり、交通の要所であると共に、災害時には常に後方支援基地としての役割を担ってきたという。被災地支援に入るには、現場と定期的に関わっておられる方の先達が何よりも重要である。委細伺つと、避難所や仮設住宅がある場所が、被災現場から離れていると支援が薄くなる傾向があるらしい。

海の幸は能登で調達したが、遠野は農業地域でもある。産直市場で地元産の野菜をお母さん方に予め依頼してカットして頂き積み込んだ。全員男性のメンバーが協力して鍋を作る。残りの要員は、沖縄の産品を手土産として小分けする。

当日は、隣接の幼稚園で運動会が開かれていた。被災



「災害されたご家族や、近所の仮設に入居した方々も少なからず居られた。最初は遠慮がちに、がまたたく間に長い行列となった人々に、輪島塗の箸とともに、大盛りの器が手渡されていった。」

みなさんの笑顔から、こちらが力を頂いたが、忘れられない感想も耳にした。「仮設に入ってから、こんなちゃんとした料理は食べてなかった。」我々の世代と見える女性が漏らした一言。

仮設入居で一件落ち着くのではない。ここからが分かれ道なのだ。分断されたコミュニティで孤独に追い詰められたり、生活の建て直しに無理を重ねて変調をきたす例も少なくない。

一方で、月末まで販売されていた口蹄疫復興宝くじが予定の半分にも届かない販売不振との報。南九州の新燃岳は小康状態のようだが、その影響は如何ばかりか。

人の記憶は薄れてゆくものである。が、非被災地は、被災地を忘れることなく、しかし縮こまるのではなく、逆に足元の経済の元気をより強くして、この国全体を回す気概が必要ではないだろうか。

非被災地に元気が無くては、復興も支えられない。

『 Podcastとインターネットラジオ 』  
(株)アスリック プロジェクト推進部 五十嵐 政信

iPhoneを思いだして知ったことなのだが、世の中にはPodcastというサービスがある。語源はiPod casting、つまりiPod向けのラジオ放送と言うことらしい。これが面白い。そして役に立つ。

ラジオなどと言うものは、ほとんど聞かなくなってしまった。たまに聞くのは車を運転している時ぐらい。カーナビのTVがアナログのため、地デジ化で使い物にならなくなったので最近では聞くことが増えたけど、それでも月に1~2時間聞くかどうかだ。

で、このPodcastなのだが、ジャンルがアート、ビジネス、コメディ、ニュース/政治、ミュージック、科学/医学、テクノロジーなど17ジャンルに分かれており、中には動画まである。そして毎週何百本も新しい番組がUPしている。しかもこれが無料と来ている。それで面白そうだった番組をダウンロードし、気に入ったものは毎週ダウンロードしている。

番組は長いものは1時間、短いものだと5分程度。3年前から新聞を取らなくなり、TVもあまり見なくなったので、世の中の流れを知るのはもっぱらPodcast頼りという状態になっている。

僕はiPodを持っていない。つまり音楽はあまり聞かない。だから僕のPCのiTunesには音楽が1本も入っていない。CDもせいぜい50枚くらいしか持っていない。という状況なのだが、最近俄然と音楽を聞くようになった。

理由はインターネットラジオだ。これまでもインターネットラジオは知ってはいたが、パソコンだと音が今一なのでほとんど聞くことがなかった。

ここでiPadの登場なのだ。「Tunein Radio」というアプリがあるのだが、これがいい。世界中のラジオ局の放送をこれで聞くことができる。日本のラジオアプリでは「radiko」が有名だが、これは国内の民放大手11社しか聞けない。しかも天下のNHKが入っていない。

ところが「Tunein Radio」には、NHKはもちろん日本のローカルFM局も入っている。でも何と言っても魅力なのは、世界中のラジオが聞けることだ。

ジャンルも、クラシック、ジャズ、カントリー、ロック、オールデイズなど22もあり、エリアもインドだろうがアフリカだろうがヨーロッパだろうがどこでも聞ける。(でもさすがに北朝鮮は入っていなかった)

それでiPadとミニコンポをつないで聞くようになったと言う訳だ。最近のお気に入りにはハワイのホノルルにある「Da pa'ina」といってレゲエ専門のFM局。聞いているだけで気分はハワイになってくる。一度お試しあれ。

『 頑張れ若社長!! 』  
株式会社GARBAGE代表 川島 嘉浩

10月も末になってきたのに東京では夏日と今年も意味不明な天候は続いております。タイでは大洪水だとか。うちの娘たちや孫にちゃんと地球を引き継いでいけるか心配です。

今回は、先日うちのお店にやってきてくれた酒造メーカーの若社長「Kくん」をみなさんにご紹介いたします。K君は25歳という若さでご実家の4代目として今年4月に会社を継ぎました。25歳ですよ!!

彼はこの10月20日現在、東京にて日本酒に関する講習を受けております。利き酒だけでなく、酒造りに関する歴史・経験則はもちろん科学的知識も習得する講習だそうです。受講生のほとんどが酒造メーカーの跡継ぎの方で、その中でもK君はダントツの若さだそうです。彼曰く「日本一若い酒造メーカー社長」とのこと。そんな彼も、若さゆえの希望と若さゆえ経験不足の間でもがいています。ちょっとそんなやりとりをダイジェストでご紹介します。

K君のミッションってなんだと思う? 「地元を活性化することです! 能登のためになることであれば何でもチャレンジしてみたいです。」

K君の考える活性化ってなんだと思う? 「地域の産業を強くして日本だけでなく世界市場にもうってでれるだけの力をつけていくことです」

それならば、地域活性化はその結果だから、まずは自分のところの商売に注力だね「そうなんです、まだ配達しかさせてもらっていません。先代や番頭さんとの意見の相違が多くて。。。」

そうかあ、意見を通すためのアプローチとしてはデータを基にしたレポート提出や本線には大きな影響を与えない小さなプロジェクト提案とかいくつか手法はあるよ。「そうですね。根底で親子関係が前提になっているので客観的な論理展開は難しいみたいなんです」

根底が親子関係かあ。。。確かにうちの祖父と親父もそうだったなあ。社長と言えどもその世界は丁稚奉公からやらないとなんだね。「そうかも知れませんが、そんなことしているうちに世の中に取り残されてしまいます。」

なるほど、会社が取り残されるという意味だけでなく、自分自身のビジネスマンとしての成長が止まることの焦りもあるわけね。僕がとても口出しできる世界ではないけど、その世界の仕来りのようなものがあるならば無視はできないと思うよ。組織のトップとして率いていくには、数字での結果を残すということは最低限必要なファクターであり、それ以外の何かが大事になってくると思うから。「わかってはいるつもりなんですけど、今の経営や商品開発手法で成長できなかったのだから、それを止める勇気を持たないとダメなんです。」なるほど。それはそうかもしれない。でも否定することは以外と簡単だったりするし、何かをイノベーションをするにあたって、何が背景にあつてどの要素・機能がダメなのかを明示するのは必要だし、やっぱり何をやるにしても求心力だよ。焦りもあるだろうけど、まだ25歳。地力と地盤づくりが大切だと思うよ。「……………」

まるで絵にかいたような、おじさんと若者の会話でした。そして、気づいた事がひとつ。まさに15年前の勝気でなんでも突破できると信じていた僕自身と同じではないかと。その時の僕はどうか? おじさんたちの意見も聞かずに突っ走りました!! その結果失敗したことも多々。あるプロジェクトの失敗で会社に数億の損も出しましたが、やりきることでそれ以上の利益を出しました。そう成功とは成功するまでやり続けること。と誰か著名な方が言っていました。K君おじさんの意見は聞き流して突っ走りなさい!! そのでの軋轢や失敗が君の成長や会社の成長に絶対つながります!!!

## 『富士の国から ~大魔神のたび~ 』

~ポートランド4~ 静岡県職員 溝口 久

7月9日(土)は楽しみにしていたポートランド州立大学でのファーマーズマーケットの日だ。毎週土曜日に開かれている。ただし冬場はお休み。ローカルの新鮮な野菜や果物、花や植物、手作りのパンやピザなど、生産者による直売の露店がずらりと軒を連ねる。ポートランド市内では主に6つのファーマーズマーケットが開催されており、住む人々の素顔の生活を垣間見ることができる。地域のトップシェフによる料理の実演や子供たちの料理教室が開かれていたりする。

ここでのテント、野菜の見せ方、食の提供の仕方がかっこいいのだ。日本でも六本木なんかのマルシェは随分とおしゃれだけど、地方はまだまだだ。

加えて、ちょっとしたスペースでは民族舞踊や音楽の演奏が即興でされている。

ファーマーズマーケットの後は、サターデーマーケットだ。トム・マッコール・ウォーターフロントパークが会場で3月からクリスマスまでの毎週土日に開かれ、250程のアート&クラフトの店が並ぶ。アーティストとの交流を楽しみながら好みのアートを探している。

10月5日に今回のポートランドの旅を企画された松本大地さんを掛川にお呼びして「人と街の商いのリンケージによる地方都市の賑わいづくり」と題して、学びそして交流する会が開かれた。ポートランドのおさらいとともに、いくつかの気づきがあった。

「地域に元気がないと人が感じる」その要因は、商店街など中心部の衰退 子どもや若い人の減少 地域産業の衰退 と続く。いまや該当しない地方都市を探すのが難しい。

人間本来の心豊かな生活は、何にあるのだろうか？ 都会での孤独な暮らし、一方地方では取り残された高齢者が増える。モノをいくら買っても満たされない。必要とされているものはコミュニケーションだ。このコミュニケーションには感情や感性のやりとりがあり、日常生活の充実をもたらす。

人の欲求は生理的 安全 所属 尊重 自己実現 社会交流へと段階があがっていく。最終の「社会交流欲」とは、自分も大切だが、自分が暮らす社会や環境も大切であり、その社会が向上発展するよう自らも参画意識を持って交わることへの欲求である。3・11以降、地域共生の場を求め、周囲との絆を深めるようになった。モノの所有よりも、心の満足や体験価値を求めつつ、同じ価値観のある人との交流など、よりよい暮らしをどうつくっていくかの選択肢が台頭してきた。

そこで、ポートランドの生活の質の向上を目指した都市開発の取組の話になっていく。



車優先から人優先を掲げ、マウントフッド高速道路建設反対運動からLRT(light rail transit路面電車)の導入。川沿いの高速道路を除去してウォーターフロントパークに、そして高層パーキングを広場にした。その結果、スプロール現象、交通渋滞、大気汚染のない、自然環境豊かな地域が現れ「住」「職」「遊」「商」が共存する素敵なコンパクトシティに再生された。

LRTをつくるとバスの乗客を奪うからと地元のバス会社が反対する傾向があるが、ポートランドではLRT乗客数の増加に合わせてバス乗客も伸びている。自動車から公共交通への流れが起きたことによると考えられる。BID(Business Improvement District)という特定の街区に不動産を有するオーナーに対し、固定資産税に一定額を上乗せし、その費用で街区の管理をする、云わばマンションの共益費にあたるものがあり、メンテナンス状況が極めて良好だ。

「古い建物のない街は、思い出を持たない人間と同じ。思い出のない人間なんてつまらない」と日系2世のビル・ナイトーが解体されそうな古い建物を買い取り保全活用したことの影響か、街中には「時を味方」につけた建物が多い。ビル・ナイトーに敬意を表しストリート名に氏の名前が当てられている。

ファーマーズマーケットは、このスーパーができるまで地価が上がると言われるニューシーズンズ・マーケットやウェストコート銀行、オレゴニアン新聞社もスポンサーとして応援している。地元の農家が潤えばスーパーに入る農産物の量・質ともに保たれることになり、地域経済も活性化する、良好な循環が生まれるというわけだ。

ニューシーズンズ・マーケットは、最もポートランドらしい持続可能な思想を持った地元スーパーだ。哲学の「地域産業のサポーター」「地元の良い雇用の創造」「コミュニティの良きパートナー」が店の壁に掲示されている。まさに地域優先(ローカル・ファースト)宣言だ。なんと店に地域の集会スペースも用意されている。

魚売り場に目をやると「持続可能な漁業のために貴方の買い物で意思を表してください。」との表示がある。そこには世界の65%の漁場で魚の捕り過ぎが起きている事情がある。魚が分類され、グリーンサインは「最も良い選択です」、イエローサインは「養殖された魚なので、健康に問題がある可能性があります」、レッドサインは「持続可能な方法で収穫される漁場で捕られていません。どうぞ他の種類を検討してみてください」となっている。実際の現場にはレッドサインの魚はなかった。

バックヤードの見学もさせてくれ、野菜や食品のコンポスト化、ダンボールのコンパクト化などリサイクルの現場にも直面した。

まさに、「持続可能な社会をつくるには、将来に続けていける人と地球に優しいあり方をもって、ビジネスやライフスタイルをつくっていくこと」なのだ。

「KEEP PORTLAND WEIRD(変わり者)」と書かれたTシャツやステッカーをよく見かける。住民が自分たちの価値観に誇りを持ち、主張している。こうした地域を日本の中で増やしてゆきたいものだ。(おしまい)

